

屋内のスポーツ・プール施設（いきいきセンター、秋川体育館）の再編等の考え方

○学校プールと連携する場合

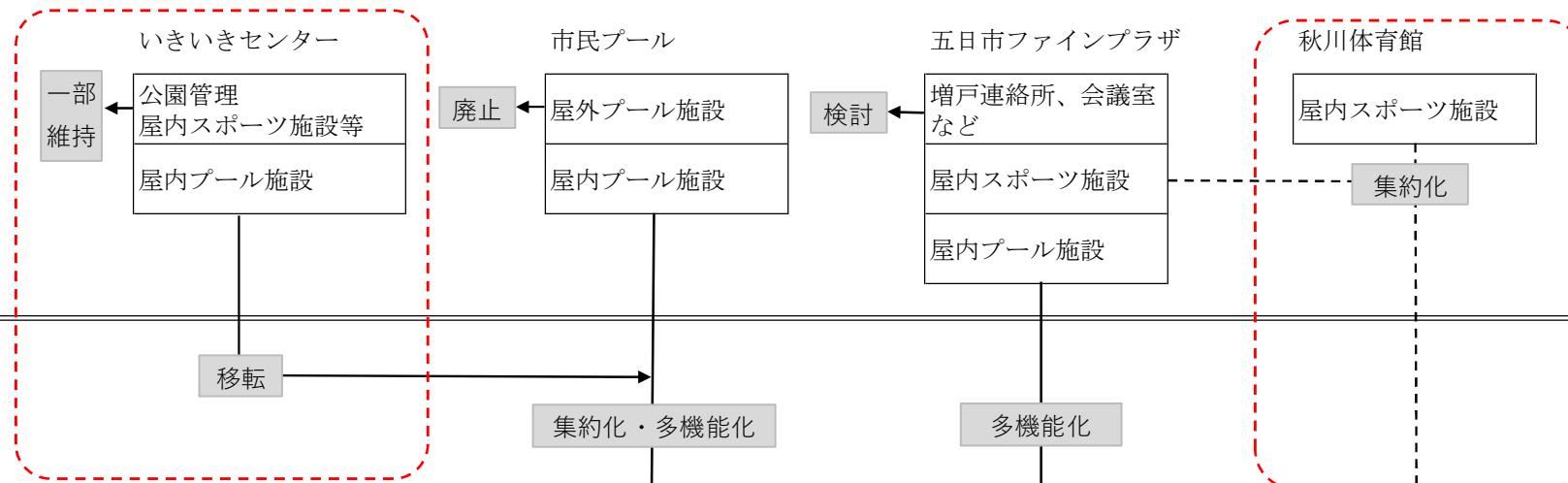
1 概要

- ・屋内プール施設は、学校プールと連携するため、2拠点に集約化・多機能化する方針を定めます。
- ・屋内スポーツ施設（体育館等）は、1拠点に集約化する方針を定めます。
- ・いきいきセンターの屋内プール施設以外の機能（公園管理、屋内スポーツ施設等）は維持する方針を定めます。
- ・五日市ファインプラザの増戸連絡所・会議室などの機能の取扱いは、別途検討します。
- ・現在、市では、小中学校の水泳授業における屋内プール施設の活用（学校プールと連携）の可否を検討しています。このため、現段階における再編等に関する実施計画は、学校プールとの連携の可否により、再編等の方向性に変化がない、いきいきセンターと秋川体育館のみを策定します。施設ごとの計画内容は、「再編等に関する実施計画（案）」をご覧ください。

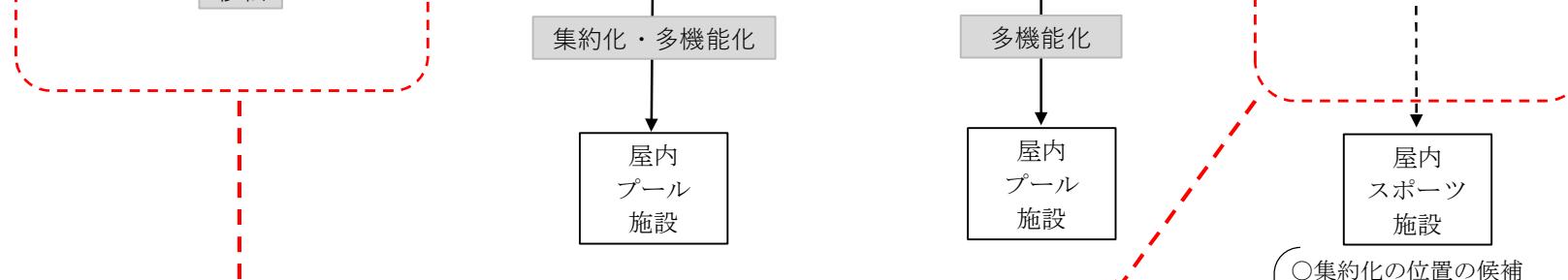
※ 屋内スポーツ施設を集約化する位置は、「現秋川体育館敷地」「現五日市ファインプラザ敷地」「新事業用地」を想定し、今後検討していきます。なお、秋川体育館や五日市ファインプラザ（屋内スポーツ施設）の建物は、集約化の位置により、移転・廃止（取壊し）する場合があります。

2 再編等のイメージ

（現状）



（再編後）



再編等に関する実施計画（案）

○集約化の位置の候補
・現秋川体育館敷地
・現五日市ファインプラザ敷地
・新事業用地

3 再編等の方向性の内容（施設ごと）

個別施設計画を基に再編等の方向性の選択肢を設定し、「①床面積の縮減の度合い」「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」「④コストの低減の度合い」「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」を評価し、採用する再編等の方向性を選定しました。

施設名称	個別施設計画を踏まえた 再編等の方向性		再編等に関する実施計画		
	選択肢 1	選択肢 2	採用した 再編等の方向性	同時に行う対応	理由など
					選択肢 1 選択肢 2
いきいきセンター	転用・規模縮小 (健康増進施設に転用し、建替えの際には規模縮小)	移転・集約化 (類似・同類の施設への移転・集約化)	移転（機能移転）・集約化		<p>避難所や投票所の機能の維持を考慮し、「移転（機能移転）・集約化」（屋内プール施設のみを類似施設に移転し、集約化）、「移転（機能移転）・集約化、転用」（屋内プール施設のみを類似施設に移転し、集約化するとともに、屋内プール施設以外の機能を体育施設以外の施設に転用）も選択肢として設定し、評価を行いました。</p> <p>その結果、「移転・集約化」が、他の選択肢と比較して、「②利便性への影響の度合い」及び「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」の評価は低かったものの、「①床面積の縮減の度合い」「③機能重複の解消の度合い」及び「④コスト低減の度合い」の評価が高くなりました。</p> <p>また、「移転（機能移転）・集約化」が、他の選択肢と比較して、「①床面積の縮減の度合い」の評価は低かったものの、「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」「④コストの低減の度合い」及び「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」が総じて高くなりました。</p> <p>結果的に、「移転・集約化」と「移転（機能移転）・集約化」が同等の評価であったため、2者を比較し、避難所として使用できる公共施設が近隣に存在しないことから、「移転（機能移転）・集約化」を再編等の方向性として採用しました。</p> <p>※ 屋内プール施設のスペースの活用は別途検討します。</p>
秋川体育館	集約化 (同施設と同様の規模を備えた施設で他の体育施設との集約化 (当施設並みの規模は市内で維持))	多機能化 (秋川体育館の多機能化)	集約化	(移転・廃止)	<p>「集約化」が「多機能化」と比較して、「①床面積の縮減の度合い」「③機能重複の解消の度合い」及び「④コストの低減の度合い」の評価が高かったことから、再編等の方向性として採用しました。</p> <p>※ 集約化の位置により、現在の建物は移転・廃止する場合があります。</p> <p>※ 秋川体育館と一体である中央公民館の再編等については、別途検討します。</p>

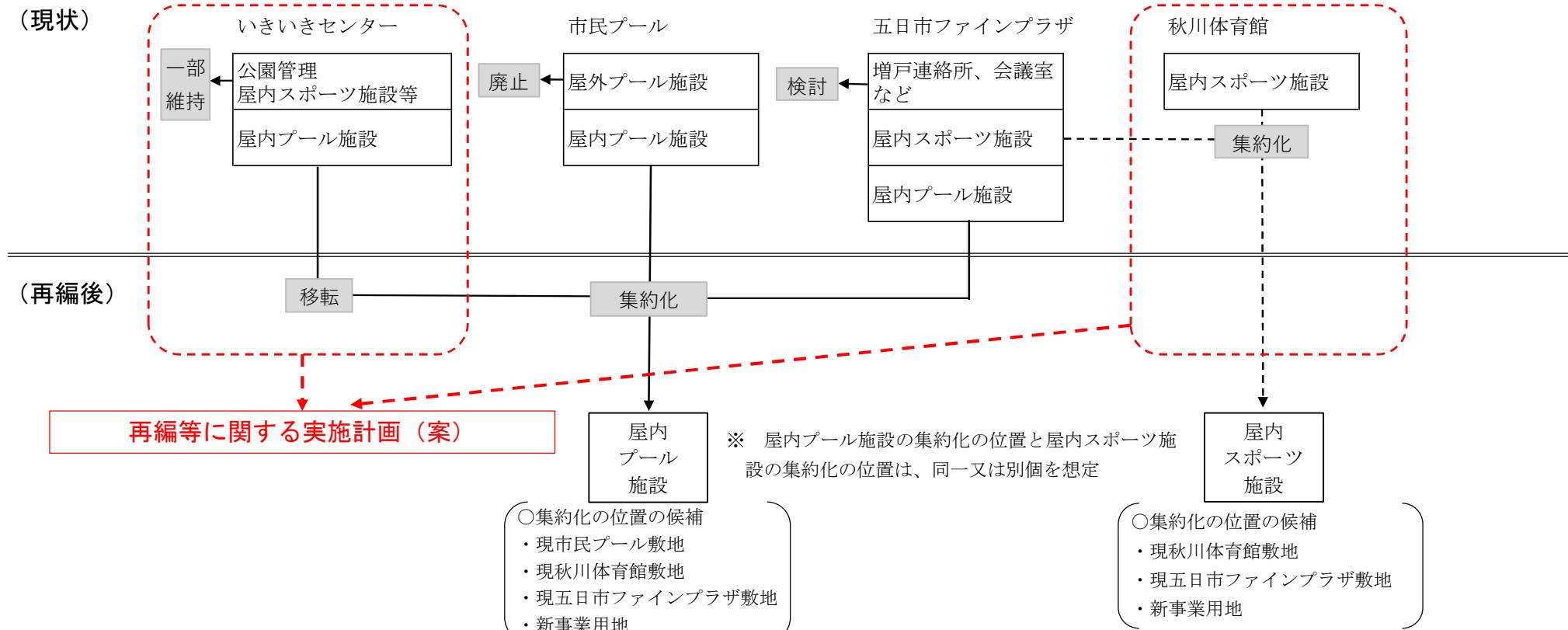
施設名称	個別施設計画を踏まえた 再編等の方向性		再編等に関する実施計画		
	選択肢 1	選択肢 2	採用した 再編等の方向性	同時に実行する対応	理由など
市民プール	多機能化・一部廃止（学校プールと連携） (屋内プールは、学校プール等の代替施設として多機能化、屋外プールは大規模更新時期に廃止(取壊し))	集約化（学校プールと非連携） (学校施設と機能連携しない場合には、同種施設(25mプール)との集約化)	多機能化・一部廃止		小中学校の水泳授業において屋内プール施設を活用する（学校プールと連携）ため、「多機能化・一部廃止」（屋内プール施設を多機能化し、屋外プール施設を廃止する）となりました。 ※ 屋外プール施設は廃止することとなっています。
五日市ファインプラザ	多機能化（学校プールと連携） (屋内プールは、学校プール等の代替施設として多機能化、広域連携による維持管理（費用負担）)	集約化・多機能化・規模縮小（学校プールと非連携） (学校施設と機能連携しない場合には、同種施設(25mプール)との集約化、多機能化又は規模縮小（会議室と体育館機能を整備した多機能な施設とし、プール及びトレーニング室は他施設と集約化))	多機能化	(移転・廃止)	小中学校の水泳授業における屋内プール施設の活用（学校プールと連携）するため、「多機能化」となりました。 ※ 屋内スポーツ施設は、いずれの選択肢であっても、秋川体育館の屋内スポーツ施設と集約化することとなります。 ※ 屋内スポーツ施設の集約化の位置により、現在の屋内スポーツ施設の建物は移転・廃止する場合があります。 ※ 増戸連絡所、会議室などの取扱いは別途検討します。

○学校プールと連携しない場合

1 概要

- ・屋内プール施設は、1拠点に集約化する方針を定めます。
 - ・屋内スポーツ施設（体育館等）は、1拠点に集約化する方針を定めます。
 - ・いきいきセンターの屋内プール施設以外の機能（公園管理、屋内スポーツ施設等）は維持する方針を定めます。
 - ・五日市ファインプラザの増戸連絡所・会議室などの機能の取扱いは、別途検討します。
 - ・現在、市では、小中学校の水泳授業における屋内プール施設の活用（学校プールと連携）の可否を検討しています。現段階における再編等に関する実施計画は、学校プールとの連携の可否により、再編等の方向性に変化がない、いきいきセンターと秋川体育館のみを策定します。施設ごとの計画内容は、「再編等に関する実施計画（案）」をご覧ください。
- ※ 屋内プール施設を集約化する位置は、「現市民プール敷地」「現秋川体育館敷地」「現五日市ファインプラザ敷地」「新事業用地」を想定し、今後検討していきます。なお、秋川体育館や五日市ファインプラザ、市民プールの建物は、集約化の位置により、移転・廃止（取壊し）する場合があります。
- ※ 屋内スポーツ施設を集約化する位置は、「現秋川体育館敷地」「現五日市ファインプラザ敷地」「新事業用地」を想定し、今後検討していきます。なお、秋川体育館や五日市ファインプラザ（屋内スポーツ施設）の建物は、集約化の位置により、移転・廃止（取壊し）する場合があります。

2 再編等のイメージ



3 再編等の方向性の内容（施設ごと）

個別施設計画を基に再編等の方向性の選択肢を設定し、「①床面積の縮減の度合い」「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」「④コストの低減の度合い」「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」を評価し、採用する再編等の方向性を選定しました。

施設名称	個別施設計画を踏まえた 再編等の方向性		再編等に関する実施計画		
	選択肢 1	選択肢 2	採用した 再編等の方向性	同時に実行する対応	理由など
いきいきセンター	転用・規模縮小 (健康増進施設に転用し、建替えの際には規模縮小)	移転・集約化 (類似・同類の施設への移転・集約化)	移転（機能移転）・集約化		<p>避難所や投票所の機能の維持を考慮し、「移転（機能移転）・集約化」（屋内プール施設のみを類似施設に移転し、集約化）、「移転（機能移転）・集約化、転用」（屋内プール施設のみを類似施設に移転し、集約化するとともに、屋内プール施設以外の機能を体育施設以外の施設に転用）も選択肢として設定し、評価を行いました。</p> <p>その結果、「移転・集約化」が、他の選択肢と比較して、「②利便性への影響の度合い」及び「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」の評価は低かったものの、「①床面積の縮減の度合い」「③機能重複の解消の度合い」及び「④コスト低減の度合い」の評価が高くなりました。</p> <p>また、「移転（機能移転）・集約化」が、他の選択肢と比較して、「①床面積の縮減の度合い」の評価は低かったものの、「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」「④コストの低減の度合い」及び「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」が総じて高くなりました。</p> <p>結果的に、「移転・集約化」と「移転（機能移転）・集約化」が同等の評価であったため、2者を比較し、避難所として使用できる公共施設が近隣に存在しないことから、「移転（機能移転）・集約化」を再編等の方向性として採用しました。</p> <p>※ 屋内プール施設のスペースの活用は別途検討します。</p>
秋川体育館	集約化 (同施設と同様の規模を備えた施設で他の体育施設との集約化 (当施設並みの規模は市内で維持))	多機能化 (秋川体育館の多機能化)	集約化	(移転・廃止)	<p>「集約化」が「多機能化」と比較して、「①床面積の縮減の度合い」「③機能重複の解消の度合い」及び「④コストの低減の度合い」の評価が高かったことから、再編等の方向性として採用しました</p> <p>※ 集約化の位置により、現在の建物は移転・廃止する場合があります。</p> <p>※ 秋川体育館と一体である中央公民館の再編等については、別途検討します。</p>

施設名称	個別施設計画を踏まえた 再編等の方向性		再編等に関する実施計画		
	選択肢 1	選択肢 2	採用した 再編等の方向性	同時に実行する対応	理由など
市民プール	多機能化・一部廃止（学校プールと連携） (屋内プールは、学校プール等の代替施設として多機能化、屋外プールは大規模更新時期に廃止(取壊し))	集約化（学校プールと非連携） (学校施設と機能連携しない場合には、同種施設（25mプール）との集約化)	集約化	一部廃止 (移転・廃止)	小中学校の水泳授業において屋内プール施設を活用しない（学校プールと非連携）ため、屋内プール施設は、「集約化」となりました。 ※ 屋外プール施設は廃止することとなっています。 ※ 集約化の位置により、現在の建物は移転・廃止する場合があります。
五日市ファインプラザ	多機能化（学校プールと連携） (屋内プールは、学校プール等の代替施設として多機能化、広域連携による維持管理（費用負担）)	集約化・多機能化・規模縮小（学校プールと非連携） (学校施設と機能連携しない場合には、同種施設（25mプール）との集約化、多機能化又は規模縮小（会議室と体育館機能を整備した多機能な施設とし、プール及びトレーニング室は他施設と集約化）)	集約化・多機能化・規模縮小	(移転・廃止)	小中学校の水泳授業における屋内プール施設の活用しない（学校プールと非連携）ため、「集約化・多機能化・規模縮小」となりました。 ※ 屋内スポーツ施設は、いずれの選択肢であっても、秋川体育館の屋内スポーツ施設と集約化することとなります。 ※ 屋内スポーツ施設や屋内プール施設の集約化の位置により、現在の屋内スポーツ施設や屋内プール施設の建物は移転・廃止する場合があります。 ※ 増戸連絡所、会議室などの取扱いは別途検討します。

■再編等に関する実施計画

令和7年8月

施設棟番号	D-1		所管部署	教育部	スポーツ推進課	スポーツ推進係
施設分類	大分類	スポーツ・レクリエーション施設	中分類	スポーツ施設	小分類	
施設名称	いきいきセンター					
所在地	あきる野市雨間1940-2			敷地面積(m ²)	5,756.88	
延床面積(m ²)	1,153.29	構造	RC造	建築年度	昭和55	経過年度 44

計画期間	令和8(2026)年度～令和17(2035)年度
①事業の概要	設置根拠：あきる野市体育施設の設置及び管理に関する条例 設置目的：体育、スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で文化的な生活の向上に寄与するため。 サービスの概要：体育施設及びこれに附属する設備の提供。体育施設における体育、スポーツ及びレクリエーションの指導及び普及事業の実施など。
②事業の現状	・平成21年度から、冬季閉鎖及び時間短縮を実施しているが、利用者数のピークは、平成24年度の24,557人である。その後は、減少傾向となり、平成30年度は18,928人まで減少している。（令和元年度は台風の影響による臨時休館、令和2年度はコロナ禍による臨時休館や時間短縮により、利用制限を行っている。）このような施設の利用制限の影響はあったが、徐々に利用者数は回復しており、令和5年度は、13,706人となっている。（平成24年度の利用者数の約55パーセント） ・利用者状況としては、65歳以上の利用者の割合が半数以上を占めており、年々増加傾向にある。
③将来的な事業のあり方(方向性)	・当該施設については、プール（水着リフレッシュゾーン）、サウナ、トレーニング室及び集会室の貸出し施設となっているが、利用者の多くはプール利用者である。 ・類似施設として、市民プール及び五日市ファインプラザがあるため将来的には施設を集約化することが望ましい。
④事業の課題	・建物や設備の老朽化が著しく、設備機器を更新する時期に来ている。 ・サービスの提供に当たっては、利用者数の推移などを踏まえ、類似施設との統合などを視野に入れ、今後の施設の在り方、方向性を検討していく必要がある。

⑤個別施設計画における施設の再編等の方向性（令和3年6月時点）	再編等の方向性	転用・規模縮小・移転・集約化										
	保全の方向性及び実施時期の目安	大規模改修	令和4	建替え 又は長寿命化改修	令和3 4	長寿命化後の建替え	令和5 4	(参考)建替え時築年数 80				
⑥再編モデル案検討のための施設特性整理	利用対象	市民一般			備考	・市外者も利用可能である。						
	需要傾向	利用需要低下傾向				・コロナ禍で利用者数が大きく減少し、その後回復しているものの、コロナ禍前と比べると減少傾向である。						
	規模適正度	余剰スペースあり				・夏季は、小学生の利用が多くプールが混雑するも、通常時は余剰あり。 ※現在は休場している。						
	建物活用	多目的利用検討可能		○		・スペースを活用し、多目的利用ができる可能性はある。 ・建物活用するのであれば建物設備を更新する必要がある。 ・秋川南側に立地しており、設備の老朽化が進んでいる。 ・借地であることなどから、当該施設を複合化する又は当該施設に類似機能の集約化を図ることは困難である。 ・スポーツ施設であり、賃貸物件での運営は不可能ではないが困難である。 ・雨間・牛沼（小松平）地区の避難所に指定されている。						
		複合化・集約化によるサービス水準の向上が期待される		×								
		設置目的と異なる使用状況あり		×								
		単独機能での建物利用が望ましい		○								
		賃貸借物件での運営も可能（市有物件での運営は必須ではない）		△								
		投票所機能		○								
		避難所機能		○								
	敷地所有	全借地（有償）				・隣接する秋川グリーンスポーツ公園と合わせて借りている。						
	都市計画法規制	市街化区域				・第二種低層住居専用地域に指定されている。						
	利用圏域	広域（複数自治体）				・近隣では、八王子市民の方が利用している。						
	広域化可能性	すでに広域化している				・施設の規模からさらなる広域化は困難である。						
⑦施策との関連性	関連施策	第2次あきる野市スポーツ推進計画 基本目標5 スポーツに親しめる場の提供										
	説明	誰もが気軽にスポーツや運動に親しむことができる環境づくりに向けて、既存施設等の整備・充実を図り、施設の効率的な管理、サービスの向上に努めるもの。										
⑧再編等の方向性及び修繕・改修等の考え方	【方向性】 移転（機能移転）・集約化		(同時に進行対応)									
	【再編方針】 ・屋内プール施設のみを類似・同類の施設に移転・集約化		—									
	・屋内プール施設以外の施設（秋川グリーンスポーツ公園の管理機能、屋内スポーツ施設（トレーニング室）等）は維持（改修等は別途検討）		【修繕・改修】 ・秋川グリーンスポーツ公園等の維持・管理機能に必要な修繕・改修を実施する。									
⑨計画実行のスケジュール	想定実施年度	想定対策内容			想定実施年度	想定対策内容						
	令和8年度以降	・屋内プール施設を集約化する位置の検討			令和8年度以降	・屋内プールのスペースの利用方法に合わせた改修						
⑩計画実行に当たっての留意事項	・市内の屋内プール施設を集約化（1拠点化又は2拠点化） ・避難所機能等の維持に配慮 【屋内プール施設の集約化の位置の候補】 ・現市民プール敷地、現秋川体育館敷地、現五日市ファインプラザ敷地、新事業用地					—						
	・屋内プール施設を集約化した後の屋内プールのスペースの利用方法を検討する必要がある。					—						
⑪計画実行後の課題												

■再編等に関する実施計画

令和7年8月

施設棟番号	D-2		所管部署	教育部	スポーツ推進課	スポーツ推進係
施設分類	大分類	スポーツ・レクリエーション施設	中分類	スポーツ施設	小分類	
施設名称	秋川体育館					
所在地	あきる野市二宮683			敷地面積(m ²)	12,370.5	
延床面積(m ²)	6,006.01	構造	RC造	建築年度	1979	経過年度 46

計画期間	令和8(2026)年度～令和17(2035)年度
①事業の概要	設置根拠：あきる野市体育施設の設置及び管理に関する条例 設置目的：体育、スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で文化的な生活の向上に寄与するため。 サービスの概要：体育施設及びこれに附属する設備の提供。体育施設における体育、スポーツ及びレクリエーションの指導及び普及事業の実施など。
②事業の現状	・利用状況としては、子どもから高齢者まで幅広い年代が利用しており、平成27年度から令和元年度までの年間平均利用者数は約171,000人となっている。（令和2年度はコロナ禍による臨時休館や時間短縮により利用制限を行っており、利用者数は約82,000人まで減少している。） ・コロナ禍による利用者数の減少はあったものの、安定した利用者数を維持しており、市民のスポーツ活動の拠点施設として重要な役割を担っている。
③将来的な事業のあり方(方向性)	・秋川体育館は中央公民館との複合施設となっており、体育室、武道場、トレーニング室及び公民館施設の貸出しを行っている。体育館及び公民館の利用については、利用者の目的や特性に応じて、誰もが快適に充実したスポーツ文化活動に取り組めるよう施設の整備を行っていく必要がある。 ・現状の利用者数からも、当該施設と同様の規模を備えた施設として維持していく。
④事業の課題	・高齢者が増加していく中で、スポーツ活動に限らず、地域交流の場としての機能も求められていることなどから、施設の改修に当たってはバリアフリー化などを検討していく。 ・建築後40年以上が経過していることから、施設、設備等の老朽化が著しく、施設の利用に当たっての安全管理も課題となっている。 ・指定管理者側の負担も大きく、安全安心で快適なサービスの提供を継続的に実施していくために、市としても改修を行い施設を維持していく必要がある。

